

「市民との絆」を大事にし、それをより強いものにしていくこと

文化政策課 杉本 将章 (一般事務 平成3年度採用)

小田原市役所を志望したきっかけ

私が採用された年は、まさにバブル華やかしきころ。周りの友人からは、「何で、わざわざ、給料の少ない公務員？」と言われたのを思い出します。そんな時代ではあったものの、私は生まれ育ったこのまちが大好きであり、離れたくもありませんでしたので、大好きなまちをもっと住みやすいまちにできるかなと思い、市役所を志望しました。

現在の仕事内容

現在所属する文化政策課では、今後の小田原市の文化政策の基本方針などを決める「文化振興ビジョン」を策定する事務を担当しています。また、係長という職務であるため、部下の仕事のマネジメントも多少行う必要があります。文化というと、演劇やクラシック音楽、文芸などの芸術表現で、華やかなイメージのみを持たれる方も多いと思いますが、今策定を進めている文化振興ビジョンでは、「文化とは何か」「文化の役割は何か」という議論をはじめ、「文化」が経済や福祉、教育などの分野に、いかにアプローチし、市民生活に豊かさをもたらすことができるか、などを市民や専門家の方と一緒に話し合いながら作っています。



アウトリーチ事業

仕事のやりがい

市役所とは「市民の役に立つところ」と言われるように、私は、自分が今やっている仕事が、本当に役に立つものなのかを常に意識することを心掛けています。また、それが出来るのが私たちの仕事だと思っています。

受験生の皆さんへのメッセージ

東日本大震災以降、「絆」という言葉が、さまざまな場面で大事にされてきています。市役所の仕事も、まさに「市民との絆」を大事にし、それをより強いものにしていくことです。皆さんをお待ちしています。



また、直接私が担当しているものではありませんが、質の高い芸術作品を小学校で鑑賞してもらう「アウトリーチ事業」や小田原駅周辺をいろいろな音楽で溢れさせ、まちの賑わいと活性化をもたらせる「小田原城ミュージックストリート」など、さまざまな事業を行うとともに、こういった芸術文化の拠点ともなる新しいホールの建設も担っています。

